

### 県中学春季ハンド

ハンドボールの第39回県中学校春季選手権大会最終日は1日、県総合運動公園体育館で行われ、男子決勝は浦添が美東に40-30の快勝で20年ぶりの5度目の栄冠に輝いた。1点を争う接戦となった女子は神森が仲西を18-17で退け、3年連続7度目の優勝を飾った。男女とも1月の新人大会決勝と同じ顔合わせとなり、浦添と神森が王座を守った。

前半の中盤以降は常に仲西にリードされる展開だった神森が、後半残り約11分、エース翁長鈴のジャンプシュートでついに14-14の同点に追い付いた。以後は互いに突き放せず、18-17の神森1点リードの残り38秒から仲西ボールでゲームが再開。最後のチャンスともいえる左サイドからのシュートをGKの新垣麗奈が阻み、神森のVを決めた。

主将の高良怜未は「ノーマークシュートを許したのは課題。それでも決勝はよく粘れた」とホッとした表情。カミからシュートが外れ、プレッシャーでさらに力むという悪循環に陥ったエースの翁長

## ヒロイン

は「調子が悪かった。もっと力をつけた」と反省を込めたが、それでも5得点はチーム最多だった。

中学での全県大会デビューとなった1年生、仲間夕夏は将来性を感じさせる3得点。「スピードがまだ足りない。鈴先輩のように、強引にでもシュートできる選手になりたい」と目標を語った。

土壇場で踏ん張ったGKの新垣は「仲西には、絶対に同点にはさせないと決めていた。最後のプレーはよく覚えていないが、精いっぱい足を伸ばした」と殊勲のセーブに笑顔がはじけた。

(崎浜秀也)

## 粘って守って3連覇



女子決勝・神森-仲西 前半、神森の仲間夕夏が積極的にシュートを放つ=県総合運動公園体育館 (仲間勇哉撮影)

## 速攻 浦添真骨頂

前半を8点リードで折り返した浦添が、後半も着実に加点する危ない試合運びで、美東を退けた。東江正作コーチは15得点のエース下地利輝を「高校生でも止めきれない」と、

そのスピードとテクニックを高く評価。「下地にほかに大きく映る下地は「相手チームの間を突く、縦の攻めを意識している。速さには自信がある」と前を

主将のGK宮國央は全体を使って何度も美東のゴールを阻止した。「練習は攻めが中心。守りは息が合っていない部分もあるのだから修正したい」とチーム力の向上を誓った。

## 全国に照準



男子決勝・浦添-美東 チーム最多の15得点を挙げ、優勝に貢献した浦添の下地利輝

# 執念

# 神森女王

【男子】		【女子】	
浦添	20	浦添	10
美東	18	神森	8
仲西	16	美東	7
西	12	仲西	10
浦	28	美東	17
神	23	西	20
森	11	東	12
仲	12	西	8
西	16	東	12
美	18	西	8
東	30	東	20